

2 連結のrと嵌入のr

● 連結のr (linking-r) とはどのような現象か

子音や休止の前にあるrを発音しない方言で見られ、母音が後続するとrが発音される現象である。発音されていた時期があったことが綴り字によって示されている。例えば、[bʌtə:] butter, [bʌtərit] butter it, [feɪvə:] favor, [feɪvərit] favor it, [hɪ:rə] hear, [hɪrit] hear it, [pɔ:rə] pour, [pɔrit] pour it。

● 嵌入のr (intrusive-r) とはどのような現象か

連結のrが生じる方言で見られ、子音や休止の前の母音が(1) [ə], (2) [ɑ:], (3) [ɔ:]などで、母音が後続すると/r/が発音される現象である。綴り字にない/r/なので、由来を歴史に求めることはできない。Gimson (1980: 208) から例とコメントを引用する。(1) ['dra:mə] drama, ['dra:mər ən 'mju:zɪk] drama and music, (2) ['ʃa:] Shah, ['ʃa:r əv 'pɜ:sfə] Shah of Persia, (3) ['lɔ:] law, ['lɔ:r ənd 'ɔ:də] law and order。嵌入のrの生起頻度は、[ə]の後に比べ、[ɑ:]や[ɔ:]の後で生じることは少ない('less frequently')とのことである。

● 連結のrからの類推により嵌入のrが生じる

連結のrが生じる末尾母音は(1) 末尾が[ə]である単母音または二重母音/o, ɔ:/, iə, eə, ʊə, (2) [ɑ:], (3) [ɔ:]であり、嵌入のrが生じる末尾母音は(1) [ə], (2) [ɑ:], (3) [ɔ:]である。両者ともに次にくる音が母音の時に/r/が生じることから、Gimson (1980: 208) は、連結のrからの類推 (analogy) により嵌入のrが生じるとしている。

● 連結のrと嵌入のrには同一のメカニズムが働いている

Donegan (1993: 117-119) に改変を加え、連結のrと嵌入のrのメカニズムを見ていく。連結のrで挙げた例語の語彙表示は/bʌtə/, /feɪvə/, /hɪr/, /pɔr/である。また、嵌入のrの例語の語彙表示は/dra:mər/, /ʃa/, /lɔr/である。語彙表示とは長期記憶の中にある音素表示で、これらの語彙表示の末尾の/r/は母音が後続すると発音される。/r/は後続母音を音節主音とする音節の頭位の子音になるからである。一方、この/r/は、次に子音や休止がくると発音されない。/r/=/ə/は音節末位の子音になるためrの音色 (rhoticity) を失い/ə/になるからである。このことをr音性の消失 (derhotacization) と呼ぶ。

Gimson (1980: 208) は「容認発音をする人々の多くにとって、嵌入のrを発音しないようにするには意識的に努力をしなければならないであろう」と述べるにとどまっている。しかし、嵌入のrを発音しないことが困難な理由は単純であるように思える。*/dra:mər/, /ʃər/, /lər/* のあとに母音がくると /r/ は音節の頭位の子音になる。音節頭位の /r/, 例えば *red, arrive* の /r/ を発音するのが普通なのに、あえて発音しないようにしようとするからである。

●語彙表示 /dra:mər/, /ʃər/, /lər/ は妥当なのか

語彙表示 /dra:mər/, /ʃər/, /lər/ の末尾に /r/ が存在する、というのがこの分析のかなめである。語彙表示を得るためにには、実際の発音に至るまでに適用される音の置き換えを、その音の置き換えが行われる前の音形に戻していく。なお、語彙表示から実際の発音に至るまでの派生は次の通りである。

語彙表示	/bʌtər/	/feɪvər/	/hɪr/	/pɔ:r/	/dra:mər/	/ʃər/	/lər/
母音長化	-----	-----	[hɪ:r]	[pɔ:r]	-----	[ʃa:r]	[lə:r]
r 音性消失	[bʌtə̝]	[feɪvə̝]	[hɪ:ə̝]	[pɔ:ə̝]	[dra:mə̝]	[ʃa:ə̝]	[lə:ə̝]
実際の発音	[bʌtə:]	[feɪvə:]	[hɪ:ə]	[pɔ:ə]	[dra:mə:]	[ʃa:ə]	[lə:ə]

事実確認がいくつか必要である。連結のrが生じる方言では、強勢を受けていない語末の单母音は長く発音される。該当例は、[bʌtə:] *butter*, [feɪvə:] *favor*, [dra:mə:] *drama*, [ə:də:] *order* である。さらに、[ə:] は [ə̝] として分析されるので (Donegan 1985: 100-104), [bʌtə:] = [bʌtə̝], [feɪvə:] = [feɪvə̝], [dra:mə:] = [dra:mə̝], [ə:də:] = [ə:də̝] である。1 音節語では母音（二重母音の場合は第1要素）が長く発音される。これを母音長化と呼ぶことにする。該当例は、[hɪ:ə] *hear*, [pɔ:ə] *pour*, [ʃa:ə] *Shah*, [lə:ə] *law* である。長母音 [a:] と [ə:] には [a̝], [ə̝] という変異形がある。該当例は、[ʃa:]-[ʃa̝] *Shah*, [lə:]-[lə̝] *law* である。変異形同士は、二重母音 [a̝], [ə̝] の第2要素が第1要素にそれぞれ完全同化すると長母音 [a:], [ə:] になる、という関係である。

語彙表示 /dra:mər/ の末尾に /r/ が存在する、との証拠は、適用の結果 [dra:mə̝] という音形を生んだ「r 音性消失」の適用前の音形であることから確認できる。同様に、語彙表示 /ʃər/, /lər/ の末尾に /r/ が存在する、との証拠は、適用の結果 [ʃa:ə̝], [lə:ə̝] という音形を生んだ「r 音性消失」の適用前の音形であることから確認できる。完全同化適用後の音形 [ʃa:], [lə:] は、完全同化が適用される前の音形 [ʃa̝], [lə̝] に戻することで語彙表示 /ʃər/, /lər/ と結び付く。

(宇佐美 文雄)